自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよた		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-25		
自己評価作成日	令和4年11月17日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0110317328-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1) 運営母体の鈴木内科医院と併設しており、24時間の医療体制が整っています。必要に応じて訪問看護を活用し、看取り時まで安心して生活できる環境にあります。
- 2) 法人内に、居宅・サービス高齢者住宅・通所リハビリ・訪問リハビリがあり、専門職から直接アドバイスを受けることによってより良いケアを提供できる環境にあります。
- 3) 職員教育に力を入れており、新人スタッフから管理者向けの研修の他、外部講師のオンライン研修を行うなど、職員の知識向上の機会があります。資格取得支援制度があり、毎年介護福祉士を輩出しております。
- 4) 法人がワークバランスを推奨しており、年2回の長期休暇(7日間)取得、社内部活動を通して他部署のスタッフとの交流の場を持つことにも力を入れております。
- 5) コロナ以前は、町内会との繋がりをもち、展示会、老人会の定例会、小さい子供や赤ちゃんとの子育てサロンに参加していました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、清田地区の羊ヶ丘通りに程近い閑静な住宅地にあり、近隣にはスーパーやコンビニ、各学校が揃う生活に至便な地域に立地している。母体医療法人は、地域医療に熱心に取り組んでいる医院で、長年、介護事業を担ってきたことから、介護の実体と現状を熟知しており、医療、介護の両面から地域に根差した住民の信頼に資する運営を実践している。また要望があれば、終の棲家として暮らされ続ける環境にあり、利用者・家族からは、事業所のコロナ感染防止対策の徹底や、外出が難しい現状においての心身の機能維持に関する工夫、利用者本位に選択するケアを基本とした配慮ある支援が好評を得ている。新管理者体制となった今年度は、お便りや電話、面会方法の更なる内容充実を職員間で検討しながら、多様な情報発信を計画していることから、その進展に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の ☐ 2. 利用者の2/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらい ☐ 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と ☐ 2. 家族の2/3くらいと ☐ 3. 家族の1/3くらいと ☐ 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある ☐ 2. 数日に1回程度ある ☐ 3. たまにある ☐ 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように ☐ 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに ☐ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている ☐ 2. 少しずつ増えている ☐ 3. あまり増えていない ☐ 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が ☐ 2. 職員の2/3くらいが ☐ 3. 職員の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が ☐ 2. 家族等の2/3くらいが ☐ 3. 家族等の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所理念を見えるところに提示し、毎朝のミーティング時に唱和しています。	法人・事業所理念を掲げ、唱和することで日常的に共有している。また、介護姿勢、理念の達成度について定期的に検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は、月に一度の老人会の定例会、子育てサロンに参加している。今年度から展覧会の出品に参加しています。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、事業所の近況の周知等、出来ることから関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前は清田区管理者会でSOSネットワーク検索模擬訓練を実施していました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策のため、規模を縮小し、法人の事業所と開催してその後地域包括支援センターに意見を頂き、サービス向上に繋がるよう努めています。	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政が参加し、定例で開催している。会議では、運営状況やヒヤリハット・事故を報告し、委員からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類申請や加算算定時の不明点など、メールで担当者にお問い合わせをし、アドバイスを頂いています。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への協力や運営状況、事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議、運営推進会議の場、法人の事業所と一緒に身体拘束について情報共有をし、ケアに取り組んでいます。 夜間以外は玄関の施錠はしていません。	身体拘束適正化委員会を定例で開催している。内容的には現状の介護実体を検証し、虐待を含め、不適切なケアの事例検討や拘束の予防法等、検討を行いながら、あってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を受講し、その内容をホーム内で伝達講習を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ以前は外部の研修会に参加していました。技能実習生や新人スタッフとともに、日常的に学習する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、理解して頂けるように説明し、質問にも返答しています。改正時はお便りの発送を行い、同意書を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ以前は毎月ご家族に面会して頂くようお願いしています。最近はお部屋で10分程度の面会を再開しております。その際に最近のご様子をお伝えしております。	利用者一人ひとりの日常や、行事、健康状態等をお便りを作成し、毎月家族に送付している。また、面会時や電話で家族が要望等を自由に話せるよう配慮し、出された意見は職員間で論議、検討しながらサービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議にて、スタッフと管理者で運営について意見あっています。個人面談を行い、スタッフの意見・提案など反映させるようにしています。	定例のホーム会議や勉強会等の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が定期的に面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者とスタッフで面談を行っています。困っている事や気になる事などの聞き取りを行い、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議にて、各自勉強会のテーマを決めて発表しています。オンライン研修を中心に研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	きよた・きよたⅡにて危機管理委員会や身体拘束委員会など共同で会議や勉強会などで行っています。オンライン研修にて交流する機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家での過ごし方、ホームでどう生活していきたいかを確認し、本人が安心して意見や要望を言いやすいような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様にも入居者様の家での過ごし方、その上でホームでどう生活してほしいか、どんな支援を希望されているかを確認し、些細なことでも安心して聞けるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と面談する機会を作り、会話や表情など見極めながら支援を出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を普段の生活から見極め、声掛けで見守りしたり、家事への参加で役に立っているという意識を持ち、生活の場を共にする意識を持って関わっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品以外で本人に必要なものは極力家族に依頼し、購入して頂いています。また、荷物が届いた際にはLINEで報告し、タイミングが合えばTV通話を出来るよう、本人と家族の関係を築けるように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で一部面会制限はありますが、御家族や馴染みの人と関係が継続できるよう支援しています。	コロナ禍で実施困難だが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に支援し、家族との外出等、今までの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を見ながら、食事の席などを配慮したり、レクやお手伝いを通して楽しく関りが持てるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様でも必要に応じて、フォローし、相談や支援に努めている。何かあれば連絡して下さいと声掛けをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメント、日々の様子など会議の場を利用し、本人本位になるように希望・意向の把握に努めています。	毎日の生活を支えながら、嫌な事、好きな事等を把握、職員間で共有して、本人本位の生活となるよう支援している。家族からも情報を得て、定期的にアセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話を聞いたり、センター方式を取り入れ、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の暮らしの現状を把握するため、記録・申し送り・会議にて情報を共有して把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフが入居者様の担当となり、モニタリング・ケアプランの見直し時に全体で話し合い、御家族・本人の移行を踏まえて、介護計画を作成しています。	利用者同士の人間関係、居室以外での居場所、役割や楽しみ作りを基本に日々の職員の気付きと合わせ、短期目標を設定している。本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録している 記録に全員が目を通し、情報を申し送り時や会議の場にて共有し、介護計画の見直しの話をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様の急な面会など、本人や家族の状況を柔軟に捉え、サービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板を届けたり、地域の作品展へ作品を提出する取り組みなど安全で豊かなクラスを楽しむことが出来るように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と毎週の医療連携にて本人及び家族に沿った適切な医療を受けられるように支援しています。	母体医療法人による訪問診療、訪問看護の連携体制があり、職員は医療的な相談やアドバイスを受け、利用者の健康を守っている。また24時間オンコール体制でのサポートを受け、夜間や緊急時の対応に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、法人内の看護師が医療連携に来ている必要時は医師の指示のもと訪問看護を利用しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を共有している 退院時は入院先と併設病院の医師、御家族と話し合い、早期退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師と連携を取りながら話し合いを行い、都度意向を確認している 御家族様にも説明して理解して頂く。	重度化や終末期に於ける対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練を日中と夜間を想定してコロナ以前は地域とも連携を取って年2回訓練していたが、現在は法人内で行っています。	災害対策は消防署の指導を得て、年2回の想定訓練を実施している。地域防災での支援合意もあり、平常は協力を得ている。組織内分担の明示と相互協力体制を整えている。	自然災害に関する避難訓練内容のさらなる充実と家族、関係者への避難場所の周知が検討されている。計画の進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けを実践しています。	職員は利用者の人格・個性の尊厳を介護の基本と捉えて、いかなる時もその尊厳を損なうことない介護に専念している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴えや思いを聞き、希望に沿うよう支援しています。自己決定が難しい方にもその時に適した支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに向き合っご希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、訪問理美容で散髪している季節に合わせた洋服を選んでいきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付けを入居者様と一緒にしています。季節感のあるメニューを業者に頼み、楽しんで頂いています。	管理栄養士監修による献立は、栄養バランスが配慮され、季節感あるものとなっている。楽しみある家事への参加を進める等、美味しく、季節を味わえる食事の機会作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して確保しています。水分量は記録し、職員間で共有しています。少ない方は好みの飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える方は声掛けをしています。難しい方は出来るところは行って頂き、他介助しています。不明な点は歯科に質問しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し管理しています。自立している方は都度記録しています。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを提供したり、体操を行ったりしています。下痢や便秘が続いてる時は、医師に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	汚染時や週2回の入浴を行っています。入居者様の状態や体調に合わせてシャワー浴や湯の温度を調整しています。	時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、日中の室温を見て冷房暖房で調整しています。日中も入居者様の状態に合わせて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があった際は記録し、スタッフに周知しています。説明書は個人ファイルで管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様全員が参加できるような行事を毎月企画しています。一人ひとりにあったレクも行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や草むしり等一人ひとりの希望に合わせて支援を実践しています。	通例では、家族の協力も得ながら外食や買い物・季節の行事・ドライブ等を楽しんでいる。現在は感染防止に留意しながら、個別に声掛けし、事業所敷地内や近隣での外気浴、体操レク等を取り入れ、気分転換、筋力低下防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布はホームの金庫で保管しています。最近では外出自粛中のため、買い物に行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望日に電話を掛けたり、必要に応じてラインなどのテレビ電話で顔を合わせ会話が出来るように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが気持ちよく過ごせるように室温、換気視覚的にもわかりやすいように絵などを掲示するなどの工夫をしている。	リビングは採光が良く、温湿度が適切に保たれた解放的な作りとなっており、四季を感じる作品や行事の写真で飾られている。共同生活の場として面会を制限せざる得ない現状においても、事業所としての方針を周知し、家族に理解を求めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど好きな場所に座ったり仲の良い利用者との会話などを楽しめるように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の馴染みのある物など利用者が安心して落ちついた空間を作れるよう工夫している。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、自室として、安全に安心して過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月行われている会議で利用者が出来ることとできない事を話し合い利用者が十分な力を発揮出来るように支援している。		